

令和5年度 学校自己評価（7月）

○全25項目中、「肯定的な意見」の平均値は86%（昨年度89%）となっており、総合的にはまずまずの中間期の評価と考える。

○ほとんどの項目で、三者平均が80%を超えていた。そのうち90%を超えた項目は13項目（昨年度17項目）あった。特に、95%を超えたのは以下の項目である。（昨年度5項目）

項目12「保護者の連絡や相談に適切に対応している。」

項目22「きちんとした服装や身だしなみで学校生活を送ることができる。子どもの服装や身だしなみはきちんと整っている。」

○特に中間期の課題として見えてきたものは、次の項目である。

項目23「テレビやゲーム、スマートフォンなどを家庭で（自分で）ルールを決めて使っている。家庭でのメディア利用（TV、ゲーム、スマートフォン等）について啓発活動を行うことができている。」

三者平均68%

保護者は54%、生徒は70%、教職員が82%であり、例年課題に挙がる項目である。メディアコントロール週間や警察による講演会、教師による指導、生徒会の取組などを通して、メディアの有効な活用の仕方についての意識は高まりつつある。引き続き、生徒にメディアの有効な使い方について考えさせていく。学校としては、メディアの使い方も含めて、自分で有効に時間を使えるようにする（タイムマネジメント）生徒を育てていきたいと考えている。そのためにも、家庭との連携が大切で、保護者の協力が必要不可欠である。保護者の方にもメディアの有効な使い方についてお伝えしていきたいと思う。

項目7「授業や家庭学習でタブレットを使って意欲的に学習できている。授業や家庭学習で効果的にタブレットを使っている。」

三者平均70%

保護者は74%、生徒は70%、教職員が67%であります。今年度より新たに新設された項目である。実際、昨年度に比べて授業などでもタブレットを使う機会が増えているように思う。昨年度は、「とにかく授業でタブレットを使うこと」を目標にタブレットを活用してきた。今年度は、「授業や家庭学習でタブレットを効果的に使うこと」を目標にしている。授業や家庭学習でタブレットを使っているものの、効果的には使えていない現状があるので今後も、職員研修を通して教職員のICTの力量を高めると共に、ICTを効果的に使えるような授業改善にも取り組んでいく。また、家庭学習もタブレットを有効に活用できるように、宿題の出し方や、自主学習のやり方などについて学校として検討していく。

○生徒・保護者の評価が特に低かったものは次の項目である。

項目4「宿題や予習・復習などの家庭学習にはきちんと取り組んでいる。宿題や長期休業中の課題等を適切に設定しており、子どもの家庭学習の習慣化を図っている。」

三者平均80%

保護者は79%、生徒は61%、教員が100%であります。保護者、生徒の数字が低く、例年課題に挙がる項目であり、項目7・23と並行して考える必要がある。生徒が主体的に家庭学習に取り組む必要があり、学校としては、1日の学習時間の目標を設定して、それに向けて努力できるような課題を設定していく。また、生徒の学習意欲が向上するように、授業改善にも取り組んでいく。生徒が「分かる」「楽しい」と思えるような授業を実践していくために、生徒が受け身にならず、主体的に活動できるような場面を意図的に取り入れていく。生徒自身が授業の中で「学びたい」と思うところから、学習意欲を高め、予習→授業→復習の学習サイクルを確立させていきたいと考えている。

●どの学年の生徒にもお願いしたい項目

項目24「学級や学年通信・学校だよりなどを忘れずに保護者に見せている。」

生徒は、1年生86%、2年生63%、3年生76%、生徒平均は75%でした。学校でも学年通信などの大切さを伝えていく。